

2019.5.19 復活節第5主日

互いに愛し合いなさい

ヨハネによる福音書 13:31-33a, 34-35

さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言っておく。あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

説教

復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。レビ記 19:18

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ヨハネ 13:34

レビ記に示されている「隣人愛」とヨハネ福音書の「愛の掟」、旧約の「隣人を愛しなさい」と新約の「互いに愛し合いなさい」の違いはどこにあるのでしょうか？

あまり違ってないようにも思われます。キリスト教では神の言葉を律法として、いい換えれば法律として理解していた時代を旧約と呼びます。そして神の御子イエス・キリストのことばを福音として理解する時代のことを新約と称します。おおざっぱにいつてしまえば「法」なのか「福音」なのか、と

なります。隣人愛と理解していた内容が「互いに愛し合う」になった。イエス・キリストの教え、福音によって「隣人愛」は「互いに愛し合う」とバージョンされました。

では、どの点がバージョンアップされたのか。なぜイエスさまは最後の晩餐のときに「互いに愛し合う」という新しい掟を強調されたのでしょうか。

ところで、わたしの家からもよりの駅に行くまで、6回ほど交差点を渡ります。道路を横断するときクルマが停車して道をゆずってくれることは10回に1度もありません。じつをいうと、わたしもクルマを運転していて道路を横断しようとする歩行者を目にして道を譲る、一時停止することができません。100回に一回ぐらいしかできません。急いでいるんです、余裕がないんです、言い訳はいくらでもできますが、実際のところは千回に1回もできていないのだとおもいます。でも1回はぐらいはできたことがあります。

100回だめでも1000回だめでも1回だけでもできたことをちゃんと見てくださる。それを覚えていてくださる隣れみに満ちたイエスさまがいることをわたしたちは知っています。もちろんたったの一回しかできていないことを誇ることはできません。10回きたから合格、そんな厳しいことを神様はいわない、それどころか1度もできないわたしたちでもイエスさまは愛していただきます。福音はこうわたしたちに語りかけていただきます。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたが たも互いに愛し合いなさい。

主の祝福がありますように。
